



第3回定例会が9月4日から10月2日まで行われ、2024年度決算の審査を行い、相次ぐ物価高騰のもとで、自治体の役割である「住民福祉の増進」を果たす市政を求めました。

物価高騰が続く中、公共料金値上げ

くらし、子育て、医療・福祉 希望がもてる千葉市に

実現 党市議団が求めつづけてきた プラスチックの分別収集・再資源化へ

2027年
12月～開始

第3回定例会に、プラスチック資源回収に向けた条例改正と家庭系プラスチック資源の分別収集・再資源化の補正予算が組まれました。

党市議団は、1991年に塩素系プラスチック等を製造メーカーに回収責任を求めた質問以降、2000年の容器包装リサイクル法がスタートしたことの機会を捉えて、プラスチックの再資源化を求めて、質問を重ねてきました。

プラスチック分別収集・再資源化の流れのイメージ

《分別・排出》



各ご家庭で分別し
ごみステーションへ
週1回排出

《収集運搬》



パッカー車で収集し
処理施設へ搬入

《再資源化》



プラスチック製品の
原料などに再商品化

あらゆる差別を許さず、共生社会をつくろう

いま、コンビニや介護などあらゆる業種で外国人が雇用され、社会保険料の負担も市・県民税の納税もしています。

党市議団は「あらゆる差別を許さず、多様性を認め合い、共生社会をつくっていく」というメッセージを市長が発信することを求めました。

市長は「国籍や文化的背景などの有無にかかわらず、多様性を認め合い、相手を尊重し相互に分かり合える共生社会を創ることは、これからの千葉市の持続的な発展に不可欠。情報発信する」と答えました。



だれもが被害者にも加害者にもなりうるハラスメント

カスタマーハラスメント防止条例の制定を提案

怒鳴ったり、長電話など著しい迷惑行為がハラスメントとして認知されるようになり、自治体でハラスメント防止条例づくりが広がっています。

この条例は市、顧客、事業者の責務を明らかにし、理解を広げ、防止の取り組みにつなげるものです。

他の会派は「趣旨は理解する」としつつも、条例提案に反対しました。



6月議会での公共施設*の利用料値上げに続き、下水道・駐輪場・斎場使用料も!?

自民党、公明党、立憲・無所属、維新が賛成

共産党は
中止を求めた

市長は「物価高騰が市民生活に影響を及ぼしているものと認識している」としながら、来年4月から下水道使用料の値上げ20億6千万円、自転車駐車場料金の値上げ2.2億円、公共施設の使用料値上げ1.8億円、斎場使用料の値上げを予定し、市民の負担を増やします。

物価高騰が続くなかで、さらに市民負担を増やすべきではありません。

*コミュニティセンター・スポーツ施設等

各公共料金の値上げ例

下水道使用料(20㎡) 年3,468円の値上げ
駐輪場使用料 一般2,000円/月⇒2,500円/月
高校生1,000円/月⇒1,250円/月
斎場使用料(12歳以上の火葬) 6千円⇒7千円



千葉市はお金が無いの!?

税金の使い方を変えれば値上げを抑制、中止できます

党市議団は、必要性の乏しい中央公園・通町公園連結強化(約30億円)などの開発をやめること、担税力のある大企業も支援する企業立地促進(約20億円)など税金の使い方を見直すよう提案。

市民の暮らしや福祉の向上のための市債の有効活用、財政調整基金の活用を求めました。